

公表

事業所における自己評価総括表

| | | | |
|----------------|------------|---|------------|
| ○事業所名 | びっころ | | |
| ○保護者評価実施期間 | 2026年1月26日 | | 2026年2月28日 |
| ○保護者評価有効回答数 | (対象者数) | 6 | (回答者数) 5 |
| ○従業者評価実施期間 | 2026年1月26日 | | 2026年2月28日 |
| ○従業者評価有効回答数 | (対象者数) | 4 | (回答者数) 4 |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年3月17日 | | |

○分析結果

| | 事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等 | さらに充実を図るための取組等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 小規模の良さを活かして、利用児それぞれに合わせた利用形態を提供できる | 利用児の体調や生活リズム、家庭状況等をふまえ、一律的な利用ではなく、個々に応じた利用時間や過ごし方を柔軟に設定している。日々の様子は職員間で共有し、必要に応じて支援内容や関わり方の調整を行っている。 | 利用時間や利用形態の調整について、その意図や効果を記録・共有し、個々の利用児にとって最適な利用となっているかを定期的に検証する。利用時間の違いによる落ち着きや活動参加状況の変化を把握し、支援の質の向上につなげる。 |
| 2 | 保護者からの相談に柔軟に対応できる | 送迎時や日々の連絡を通じて保護者とのコミュニケーションを継続し、相談があった際には個別に時間を確保して対応している。安心して相談できる関係づくりを意識している。 | 個別対応に加え、保護者同士が情報交換できる機会を短時間・自由参加形式で年に2回程度試行的に実施する。また、活動の様子や支援の意図を分かりやすく発信し、参加の有無に関わらず理解と安心感が深まるよう工夫する。 |
| 3 | 芸術体験ができる | 創作活動や音楽活動等を日常的に取り入れ、利用児の興味関心や発達段階に応じて無理のない形で参加できるよう配慮している。多様な表現に触れる機会を確保している。 | 活動ごとの狙いを明確にし、参加状況や表現の変化等を記録・共有することで支援の効果を検証する。また、必要に応じて外部資源の活用も検討し、活動の質と幅の向上を図る。 |

| | 事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等 | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等 |
|---|---|---|--|
| 1 | 環境面の制約がある | 自施設の建物ではないため、バリアフリー化などの環境整備に制限があり、利用児の状態によっては十分に対応できない場合がある。 | 現状の環境の中で安全性を確保するための運用の見直しや工夫を行うとともに、必要に応じて代替手段の検討を行う。また、利用者のニーズをふまえた環境調整の優先順位を整理し、可能な範囲で改善を図る。 |
| 2 | プログラムの体系性が弱い | 日々の活動が利用児の状況に応じた柔軟な対応となっている一方で、年間を通じた計画性や支援の成果を客観的に評価する仕組みが十分に整理されていない。 | 活動内容について年間の枠組みや方向性を整理し、職員間で共有する。また、利用児の変化(参加状況・行動面など)を記録・可視化し、支援の効果を振り返る仕組みを整える。 |
| 3 | 学習支援への対応が限定的 | 読み書き等の学習支援を希望する声がある一方で、事業所の支援方針として、感性や非認知能力の育成からの療育に重点をおいているため、十分に対応できていない。 | 事業所の支援方針を整理し、学習支援の位置づけを明確にする。その上で、必要に応じて外部資源の情報提供を行うとともに、日常の活動の中では集中力や表現力など基礎的な力の育成につながる支援を強化する。 |